

# 会 議 録

<b>会議名称</b>	第4期幸区区民会議 第2回専門部会（仮称）B部会
<b>日 時</b>	平成24年10月3日（水）18:30～20:30
<b>会 場</b>	幸区役所 プレハブ会議室
<b>出席者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●区民会議委員（五十音順） 神谷美和委員、古場敏光委員（部会長）、酒井清委員、鈴木都委員、戸張一吉委員、榎林照江委員、原紀代子委員、春田公江委員、村田清子委員（副部会長）、遊佐栄津子委員</li> <li>●事務局 幸区役所まちづくり推進部企画課 佐々木智子課長、加藤剛史係長、菅野和彦職員、地域保健福祉課 家中悦子係長、高齢者支援課 大城敬子係長、株式会社地域計画連合 田口香子研究員</li> </ul>
<b>欠席者</b>	鈴木忠夫委員
<b>配付資料</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●議事次第</li> <li>●資料1 第4期幸区区民会議（仮称）B部会の審議テーマについて（投票結果）</li> <li>●資料2 「高齢者見守りネットワーク」の取組状況について</li> <li>●資料3 第2回第4期幸区区民会議における「（仮称）B部会」の報告イメージについて（案）</li> <li>●資料4 第4期幸区区民会議平成24年度スケジュール</li> </ul>
<b>議 題</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 審議テーマの選定と取組内容の検討について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 5つの基準に基づく結果について</li> <li>(2) 地域の見守りに関する取組状況について</li> <li>(3) 審議テーマの選定と取組内容の検討について</li> <li>(4) 専門部会の名称について</li> </ol> </li> <li>2 第2回幸区区民会議での報告内容について</li> <li>3 その他</li> </ol>
<b>決定事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●審議テーマは、「地域の見守り体制づくり」とする。</li> <li>●部会名は「みんなで見守りたい」とする</li> <li>●第2回第4期幸区区民会議での報告は、古場部会長が行う。</li> </ul>
<b>会議の内容 及び 主な発言</b>	<p><b>1 審議テーマの選定と取組内容の検討について</b></p> <p>(1) 5つの基準に基づく結果について 資料1に基づき、事務局から審議テーマの投票結果を説明</p> <p>(2) 地域の見守りに関する取組状況について 資料2に基づき、幸区役所高齢者支援課及び地域保健福祉課から、最も関心の高かった地域の見守りに関する取組状況を説明</p> <p>(3) 審議テーマの選定と取組内容の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●審議テーマは、検討の結果「地域での見守り体制づくり」となった。</li> </ul> <p><b>【主な意見・質疑応答】</b> (老人クラブでの取組について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●昨年度から、幸区役所では、高齢者同士の支えあいを目的として、「ふれあい&amp;すこやかサポーター養成講座（年4～5回）」を実施している。また、老人クラブでは友愛訪問を行っている。老人クラブは、日ごろの状況を知っていて、何かあれば気がつける体制にある。</li> </ul>

- 養成講座の修了者は、昨年度は61人。今年度は75名を予定している。区全体で、老人クラブは約78団体、約3,000名が加入している。
- 各地区で活動は行っている。いかに「(地域の活動に)参加していない人」を救えるかが課題である。

(高齢者の地域との関わりについて)

- 高齢者人口が増えているが、老人クラブへの参加者は減っている。取組の熱心さは、場所によって異なる。
- (老人)いこいの家という施設があるが、その場所は十分には知られていないし、利用者も元気な人に限られている。
- 幸区の見守りに関する取組は、まさにスタートしたばかりの状態と言える。
- 地域包括支援センターは、高齢者や家族を支えるセンターとして大きな役割を持っているが、あまり知られていない。
- 現場で感じることは、老人クラブや地域包括支援センターに足を運ぶ人は大丈夫だが、足を運ばない人・かたくなに拒否している人がある。そういう方々をどうしていくかが問題である。

(他区の事例について)

- 中原区は商店街、高津区・麻生区は事業所との連携により、見守りの「目」が増えている。
- 地域包括支援センターをさらに周知することが重要ではないか。

(川崎市地域福祉見守りネットワーク事業について)

- 川崎市地域福祉見守りネットワーク事業については、今後の審議の中で、取組の進捗等、機会をとらえて教えて頂きたい。

(審議テーマの選定について)

- 地域の見守り体制づくりは、以前から懸案問題になっているが、「言うは易し、行うは難し」である。草の根の取組が必須である。
- 市も県も、様々な取組を行っているが、それで十分ということはないのでは。
- 末端の現場で何が起きているのか、それを明らかにしないといけない。
- 民生委員として活動してきた中で、地域の見守り体制づくりが区民会議のテーマとして最も重要と考えている。
- 民生委員だけでは限界がある。地域全体で見守る体制をつくっていききたい。最近の例としては、マンションに住んでいた御夫婦で、敬老のお祝いを持って行ったら、「(連れ合いが)亡くなった」ということだった。その時に初めて、亡くなっているのが分かった。
- 「地域の見守り体制づくり」と「地域の魅力・情報発信」が最も投票が多かったので、この2つのテーマがふさわしいと思う。
- 「地域の見守り体制づくり」は、ずっと行政に望んでいたものだったが、今までも身近な範囲で可能な限りの取組を行ってきた。
- 県・市・区で取り組んでいる見守り体制の取組と、今回の区民会議での取組の違いについては、今後の審議や行政とのすり合わせの中で、見極めていければよいのではないか。
- テーマについては、1つに絞って、皆の知恵を集結してはどうか。行政がやるべきこと、区民がやるべきことを、それぞれ明らかにしていくとよいのではないか。
- 行政がやるべきこと、区民がやるべきことを、それぞれ明らかにしていくことは、まさに区民会議の「行政と市民の協働」にあたると思う。
- まずは実態把握や、他自治体の事例収集を行い、その中で、ポイントを見極めて、テーマを絞るという形で進めていければよいのではないか。「地域の見守り体制づくり」を2か年で審議し、社会の役に立つ提案をすることとしたい。まずは、実態をよく調べるということに取り組んではどうか。

(4) 専門部会の名称について

専門部会の名称については、分かりやすい名称にすることとし、「みんなで見守りたい」になった。

【主な意見】

- 「見守り」という言葉を入れるとよい。
- 「見守りたい」ではどうか。
- 一般の人にとっては「絆」のような抽象的な表現よりも、「見守り」などの言葉が入るとよい。
- 「みんなで見守りたい」などはどうか。（「みんなで見守りたい」という名称は）優しい響きを感じる。

**2 第2回幸区区民会議での報告内容について**

報告は、古場部会長が行なうことになった。

**3 その他**

(1) 次回区民会議全体会議、専門部会等の日程確認について

- 第4期幸区区民会議第1回企画運営部会を平成24年10月29日（月）18時30分から開催
- 第2回第4期幸区区民会議の日程の候補日について確認した。
- 次回の「みんなで見守りたい」は、平成24年12月12日（水）18時30分から開催

(2) 「新総合計画『川崎再生フロンティアプラン』第3期実行計画の平成23年度実施結果についての意見募集」について

- 事務局から意見募集の内容について説明を行った。

以 上